

『高齢者との関わり』部会 活動報告

私たちは、普段関わることの少ない高齢者のことをもっと知りたい、学校で高齢者と昔遊びをして交流したことがあり、楽しかったのもう一度関わりたい、一緒に楽しめる場所を作りたいという思いから『高齢者の関わり』をテーマに一年間活動をしてきました。

◇身近な高齢者にインタビュー

高齢者と一緒に住んでいる方や近所の方などにインタビューをしました。

- 友達や孫、近所の人や仕事に関わった人と話すのが楽しい。
- 同年代の人とは話すが、知らない人や他の世代の人だと話しづらい。
- 子どもたちと話す機会が少ない。

インタビューから、なぜ話す人が偏るのか、どうしたらお互いに話せる関係になるのか、子どもたちと関わりたいと思っていることが分かりました。私たちは、高齢者と子どもが関わるための機会や場所が少ないと思い、イベントをやろうと考えました。そこで、どのようなイベントだったら参加したいと思うかを高齢者に聞くため、夏休みを利用し、高齢者福祉施設などを訪問しました

◇高齢者福祉施設を訪問し、アンケートを取る

- 一人であることが多かったが、施設に来るとたくさんの人と話ができて楽しい。
- 行事があるから楽しい。
- 子どもたちともっと関わりたい。
- イベントのカレンダーがあって予定が立ててあるので、見通しが立ち参加しやすい。

施設では、とても楽しく過ごされていました。アンケートから、子どもと関わりたいと思っている方がたくさんいることを知り、子どもと高齢者が自然と関わりあえ、楽しめるイベントを行うために、日頃、高齢者と関わっている地域福祉コーディネーターと地域包括支援センターの方を講師として招き、お話を聞く事にしました。

◇「高齢者との関わり」講座を開催



- 関節が曲がりにくくなるプロテクターを肘と膝に装着し、手首と足首には重りを付ける。
- 視野が白くぼやけて見えるゴーグル、音が遠くに聞こえるヘッドホンを身に付け、階段の上り下りを行う。



高齢者体験の様子

体験後、感想や気付いたことをみんなで出し合いました。

「関節が余り曲がらず、目の前の景色もぼやけているので、階段の上り下りがとても怖かった。」

「実際に体験することで高齢者の苦勞が良く分かりました。」

「できるだけ低い声で話した方が聞き取りやすい。」

「移動があまりできない。」「高齢者の立場に立ったイベントを考えないといけない。」

講師からのアドバイスもあり、江の島住宅で行われている茶話会「カフェエのしま」を訪問し、様子や運営についてお話を伺うことにしました。

◇「カフェエのしま」を訪問



- 老人会が運営していて、誰でも参加できました。
- 高齢者の方が生き活きと交流していました。
- 子ども委員がけん玉を披露したら、大変喜んでくれた。
- もっと子どもたちと交流ができれば嬉しいと話していた。
- 笑顔で「いつでもおいで」と歓迎された。

私たちは、このような活動から「体が思うように動かない」「高齢者同士の交流の場が地域にある」「子どもと関わり合いたいと思っている」行事に参加することが楽しいと思っている」ことを知りました。このことから、高齢者と子どもたちが交流できる場所を増やし、「気軽に世間話ができる関係」「イベント以外で会った時でも楽しく話せる関係」を作ることを目的に、3つのイベントを考えました。

○「朝友フェス」

土日の午前9時～10時位に開催し、場所は、公園や空き家、空き部屋など。内容は、はじめにラジオ体操を行った後、ゲートボールやべったんなどの簡単なスポーツや茶話会など気軽に参加しやすいものを行う。

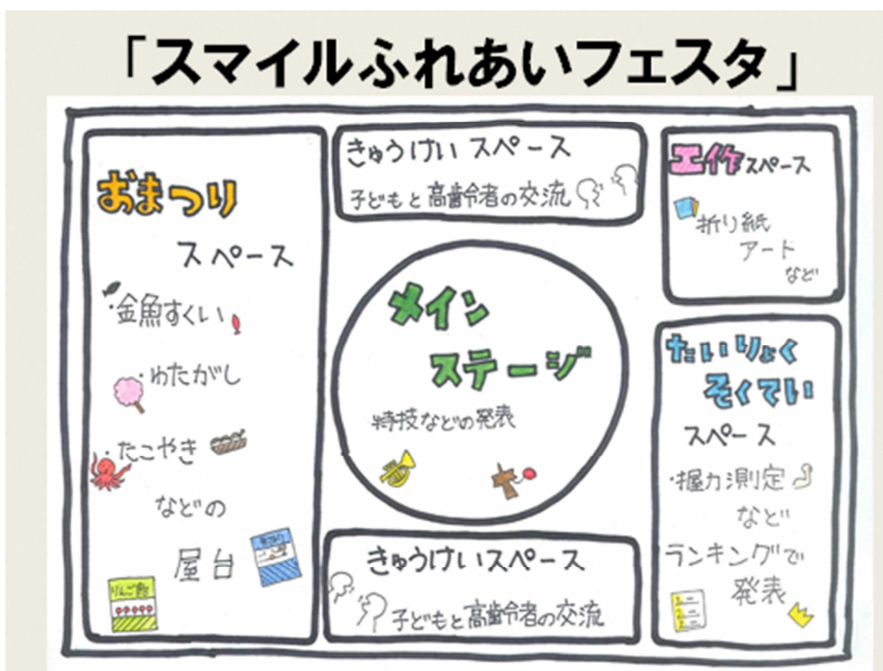
○「午後友フェス」

平日の午後3時から5時位に開催し、場所は、地域の集会所、空き家、空き店舗など。内容は、茶話会やクッキング、ミニゲーム大会を行う。

『MOTTAINAI（もったいない）』部会の空き家等の活用の一つとしても考えています。

○「スマイルふれあいフェスタ」

年に一度くらいの大型イベント。大人数が参加できるように昭和記念公園などの大きな公園や学校の体育館・校庭で開催します。



- ・発表を行うステージや模擬店
- ・工作や体力測定ができるスペース
- ・学校や児童館、子ども会や老人会に協力を依頼する。
- ・子ども実行委員を立ち上げ、企画、準備、運営を子ども実行委員が行う。

◇年間のまとめ

私たちは、『高齢者との関わり』について考え、一年間活動をしてきました。近所の方へのインタビュー、施設見学とアンケート、高齢者との関わり講座、高齢者体験を行うことで、自分達が知らなかった高齢者の特性や考えを学ぶことができました。そのことから、高齢者と子どもが気軽に関わり合えるようなイベントを考えました。これらのイベントを継続していく事で、ゆくゆくは、高齢者と子どもが交流できる場所が自然と増えていくことができると考えています。

以上のことから、『高齢者との関わり』部会では、次のことを立川市に提案します。

立川市への提案

○多世代交流イベントの実施

○高齢者と子どもが、気軽に関わり合える機会と場所づくり

以上